

アレルギー対応探る

伊香保 温泉関係者20人研修

伊香保 温泉関係者20人研修
 洪川伊香保温泉観光協会（大森隆博会長）は6日、アレルギーを持つ宿泊客の対応について考える初の「環境アレルギーセミナー」を渋川市伊香保町の伊香保温泉ビジターセンターで開いた。ホテルや旅館の関係者約20人がアレルギーの基礎知識を学んだ。

ついでに知識を広め、もてなしに生かしたい」と話している。

講師は日本環境保健機構の高尾和宏専務理事、環境アレルギー代表、同ネットワーク

ドバイザー支援ネットワーク群馬の塩田忠則

魚沼の勝又恭子代表の3人。

高尾さんは、食物アレルギーは広範囲なため完全な対応はハードルが高いことを説明。「どこまで対応できるか明確なラインを引くことが大切。中途半端に進めると問題につながりやすい」とアドバイスした。

同協会は今後、各宿泊施設から実際の対応例や意見を集め、温泉街全体のアレルギー対応を探っていく。大森会長は「アレルギーに

アレルギーについて講演する高尾さん(左)

